

---

# はがない！ オリキャラinわーど

ラッキー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

はがない！ オリキャラinわーるど

### 【Nコード】

N4930V

### 【作者名】

ラッキー

### 【あらすじ】

気がついたら 僕はそこに居た

何故ここに居るんだ？

普通にオリキャラが異世界であるラノベの世界に行く話です

リア充目指して突き進め(前書き)

エロ有りかも？

## リア充目指して突き進め

うん？　ここは何処？　あつ、私は雨霧あめぎり 雫しずくです。

「おお、気づいたか」

えつと、あなたは？

「僕は神様だよな？」

いや、私に聞かれても・・・

「まあ、君は私の手違いで大変な事に」

ああ、テンプレね。で、死因は？

「豆腐を落としてそれが君の頭にあたっちった〇（＾　＾）〇」

ええ〜、まあ、いいか、んじゃ転生よろ〜

「わかった、行って来い」

えつ何処？

「はがない」

よし、今度こそリア充になれる！

つーか展開はえーな

「作者の頭はだめだからな」

そーか、ならいつてくる。

「ほいさ、テンプレ通りに、な」

地面に穴が空いて私は落ちて行った。

神「チートはつけといたからのー」

わたしは落ちて行った

あはは

はは

くけけけ

けけけけせけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

百合百合にしておくかしらね。

,

何時までおちるのかしらね

## リア充目指して突き進め（後書き）

まじでアホな文で意味が分かりませんし、

iPod touchからでものっそい遅いです。それでももおっ  
ていう神様なら見ていただけたら嬉しいです。

リア充目指して突き進め2話(前書き)

ちなみに零の一人称は心では私ですが会話では僕です

## リア充目指して突き進め2話

やっと着きました。衝撃はなかったけど、まさか一時間おちるとはおもわなかったわ。

どうやら、あの学校が 聖クロニカ学園だね。

神「いうの忘れてた、君は、元から居る事になってる。そして友達がない。二年生である。」

雫「僕は又一人なのね。そうなのね。わかったわよ」

？「お前は、誰と話をしているのだ？」

えっとこの子は、

雫「マリア先生ですよね？」

ちがったら悲しいな。

マリア「おお、先生って言われたの久しぶりな気がするのだ」

何故？学校よね。此処は？ ああ、夜空かあ。

マリア「とゆーか、何故此処にいるのだ？」

いや、私に聞かれても・・・

マリア「あとお前は何て名前なのだ？」

教師なら覚えているのが普通でしょ。

雫「僕は雫、雨霧 雫です」

まさかの無口キャラですか？

マリア「雫だな。で、今日は土曜日で休みだぞ。」

えっ、そうなの。なら私は家に帰りましょうかしら

雫「なら、帰りたと思います。」

マリア「そうそう、うんこの夜空には、気をつけるよ。私なんか丸め込まれて

顧問にさせられたんだからな。」

ああ、なら、モン狩買って進めと」。

ついでに暗号をときますか

雫「色々ありがとうございます。」

まあ、リア充になってやる！

## リア充目指して突き進め2話（後書き）

やはり考えながら書くものじゃないな小説は。

「まともに考えてないの？」

おお〜雫さんいらっしやい。

「次回、リア充目指して突き進め三話 隣人部に入る」  
また、考えながらかきますかね。

リア充目指して突き進め三話 隣人部に入る 前編(前書き)

今回は「」の前に名前を入れませんか  
コレからもそうしたいです

リア充目指して突き進め三話 隣人部に入る 前編

私はモン狩を買って進めた。そして月曜日

「これがポスター？」

書いてたのは原作通りの文字。それを見ていたら、

「何だ、貴様は？ そのポスターがどうかしたのか？」

夜空ね。ドラマCD通りの声ね。因みに私の見た目は夜空と星奈を足して二で割った感じ。

声は想像にお任せするわ。

「いや、ともだち募集って書いてたから僕も入りたいなと思って。」

「まさか貴様も気がついたのか！（何故気がつけたんだ？こんな物で。）」

何か驚かれてるな。

「どーしたんだ。夜空？ おっと、そちらは？」

そう言えば、私名乗ってなかったわね。

「僕は、雨霧 雫。君たちは？」

知ってるけど、友達がいない設定だしね。

仕方ないわねえ。

「夜空だ。三日月 夜空。夜空で良い。そしてこっちのヤンキ

ーが小鷹だ、ヘタレヤンキーで良いぞ！」

「なら僕も雫で良い。」

まあ、焦るだろーね。それにしても何故僕っ子に誰も突っ込まない？

夜空サイド

廊下を歩いていたら、私の作ったポスターを見ている生徒が居たので声をかけて見た

「何だ、貴様は？ そのポスターがどうかしたのか？」

すると、生徒は、少し考えてから

「いや、ともだち募集って書いてたから僕も入りたいなと思って。思わず言ってしまった」

「まさか貴様も気がついたのか！」

つまり、こいつも友達がいけないという事だ

あの牛とちがつて大人しいからな、それに可愛いし、って私は何を考えているんだ？

そこに小鷹が来た

「どーしたんだ。夜空？ おっと、そちらは？」

そう言えば、まだ名乗ってなかったな。

私が名乗ろうとしたら

「僕は、雨霧 雫。君たちは？」

先を越されてしまった。なので、

「夜空だ。三日月 夜空。夜空で良い。そしてこっちのヤンキ

ーが小鷹だ、ヘタレヤンキーで良いぞ！」

「なら僕も雫で良い。」

ああ、可愛いなあ。

雫サイド

名前をいったら、ヘタレヤンキーが

「いや、よくねえよ？ 小鷹だ。よろしくな(＾O＾)ノ」

凄く怖いんだけど、

「いや、男子が増えてよかったなあ。」

今、何と言った！？

「何で言ったの。」

少しびびって

「いや、男子が増えてよかったなあ。って。」

「僕は女子だよ？ 確かに胸は無いけど。」

何故か、かおと背だけは二人の物なのに、胸だけ、マリアより少し大きい位なんだよね。

「ごめんなさい」

「いや、それよりも制服で理解しろ。」

何故夜空もいつてくれたんだろ。

まあ、いつか。

「コレからよろしくね。二人とも。」

笑顔で言う。

二人とも顔が赤いですね。大丈夫かな？ 怒ってるのかな。熱があるのかな

続け

リア充目指して突き進め三話

隣人部に入る

前編（後書き）

はい、二回に別れました。

夜空が凄い勢いでぶっ壊れました。あと、小鷹は、可哀想な子になります。

リア充目指して突き進め三話 後編(前書き)

もう、俺にも理解不能です。

ええーい、ノリと勇気とチートで生きていけ！

## リア充目指して突き進め三話 後編

どうしてこうなった？

「はあはあはあはあ、どきなさいよお」

星奈がそう言いながら、大剣をふる

そう、なぜか私たちは、モン狩の世界にはいつてしまったのよ。

「やるしか無い」

私はそう言いながら日本刀で切る。 神（爆笑）がチートくれてた事に気づいたから霊力と気を流して威力をあげている。

「二人ともすげえな」

一応、回想でもしておくかしらね。

「あら、誰かしらその可愛い娘は」

「新しい部員だ。牛」

「夜空の代わり？ それともヘタレヤンキーの代わり？」

「「「いや、ちがうし。ていうか、そんなに追い出したいのか？」」」

「つい私も言ってしまった。」

「ねえ、あなた私とい事しない？ はあはあはあ、まじかわいい。」

ねえねえ名前なんて言うの？」

「僕は雲 雨霧雲です」

「雲ちゃんマジ天使。 あり得ないあり得ない 凄く可愛い」

「モン狩するんだろ」

「そーだった。雲ちゃん、ランク5の私がまもってあげるからね」

「「「ランク5！！？」」」

「僕もさだよ？お姉ちゃん」

「星奈でいーよ。雫ちゃん、一緒に夜空倒そう」

「何を言ってる肉 貴様はこんがり肉になって消える大体雫は私と共に貴様を倒すのだ。残念だったなあ、肉う」

「あの、俺は？」

「こわいよ、あの人」

「消える、ヘタレヤンキーがまずは貴様から消してやる」

そうしてゲームを起動したら何故か、自分たちがゲームの中に入っていたんだよねえ。

まあ、何とかしますかね。

ドラスポスが三体同時にやってきました。まず霊力と気で強化した日本刀で一体倒す

星奈が大剣を何十回が当ててたおしていた。実際には使いづらいわね。

「みんな大丈夫？」

「一応、ね」

「ああ、何とかな」

「つーか、凄いな。何故戦えるんだ？」

「どーでもいい事です」

なんか大きい龍がきましたね

「でかすぎだろ、どーしろと？」

「でも、みんなは守る！」

うおおおおー

一気に斬りかかる。首、肩、本体という風に斬る。

「あまり、きいてませんねえ。」

なら、もっと込めるだけです」

さらに霊力と気を流す

おりゃあ

「我は、雫 万物切り裂く刃なり。 その力、その恐怖、自身の身にて覚えよ。 では、行くぞ」

そう言い

一気に切り倒す。そしてやっとゲームの世界から出る事が出来たよ

リア充目指して突き進め三話 後編(後書き)

どうしてこうなった？ モン狩の意味が、しかも全員空気ですね。  
完璧理解不能

もうすぐ完結させますよ

キンクリするけど、一気に6巻までとびます。わけわかんねえ  
あと、今日中におわると思っています。

オリキャラショーかい(前書き)

はい、

完全に忘れてました

## オリキャラしょーかい

雨霧 雫 (うぎり しずく)

身長 150cm

体重 40kg

とくい

料理、絵、勉強、運動

にがて

得意以外

とつてもかわいいというチートもち

あと身体能力と勉強はチートで最強 あとテンプレ通り漫画アニメ  
ラノベゲームの能力を使える。

基本、最強だけどこの世界では意味がない。次は、恋姫にでも行か  
せるかな

友達が出来ないというより、一人を好み人を嫌う

まあ、チート過ぎるけどね。

あと、作者にチートつけて女子かしただけのキャラ口調が定まらな  
いのも作者の口調が定まらないから

それにしても可愛い、あと、ロリコン シスコン

そして、周りから天然と言われる「ちがうのに」だそうです

そして、どS

百合属性

趣味

子ども、主に女子を可愛がる。

猫のモノマネ

アニメキャラのモノマネ  
そのたもろもろ

## オリキャラしょーかい（後書き）

はあ、チート以外は作者そのままです。

「変態・・・？」

それはヘタレヤンキーにでもいってあげなさい。  
この小説では喜んでくれるから。

そついや百合らしい事してないな。デレデレ夜空を出してみよう。

いなりずー

はい、夜空がデレデレになりました。えっ、何をしたかって？  
チートしかないのだよ！

そついや百合らしい事してないな。デレデレ夜空を出してみよう。

いなりずー

いま、夜空とデート中です。あの熊さん可愛いとか、でも雫のほうがいいなあとかいるいる暴走してますわね。

とりあえず、

「夜空、君は自分を忘れてる。この僕なんかより君のほうが可愛いに決まってるだろう?」

「か、可愛い?この私がか? そんな事言わないでよう」

顔を赤らめる夜空、 いいねっ!

そんなこんなで、邪魔な小鷹と星奈をチートの力でリア充にして退部させました。

てへっ

小鳩ちゃんも隣にいます。お姉ちゃんとよんでくれます。小鷹を私に近づけたくないようです。とられたくないんでしょうねえ。そうして、私はハーレムをていにれた!もちろんあんな事やこんな事もしましたよ? おいしかつたなあ、あの唐揚げ

なんか星奈がモン狩の大剣もって襲いかかってきたけどなにがあったのかしらね?

という夢をみたという夢をみたという夢をみたという夢をみた  
夢のなかで何回寝てるんだる僕・・・じゃなくて私

は  
まあ、疲れてるんだよね。

は

夢落ちなのね。私の期待を返せ

「邪な考えがあるようだね、君には、ハーレムをつくれて無双出来る世界に送った方が良さそうだな」

神様？ まさか強制転生させるつもりかしら？

「うん、そう 俺妹とかどう？」

無双じゃないし。ハーレムは余り変わらないし、意味ないじゃん！

「ならロウきゅーぶでどうかな？」

最高ですね。じゃあ、お願いします

「おk では 今回で何故か最終回です。 ですがおまげがありますよ。 にぱ〜」

誰に言ってるの？ 見てる人なんて居ないのに・・・

「感想着きたよ？」

そうなのね、じゃあまた今度あいましょう？ 多分、今日か明日にね

そついや百合らしい事してないな。デレデレ夜空を出してみよう。

いなりずー

はい、なにがあったかはご想像にお任せします。

チートの意味ないじゃん！

ラストだ(前書き)

考えつかないので終われ!



ラストだ（後書き）

何がしたいのかわかん  
とにかく終われ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4930v/>

---

はがない！ オリキャラinわーど

2011年9月27日00時38分発行